



# 会報

第25号

平成6年9月

北海道美術館協力会

札幌市中央区北1条西17丁目 電話011-644-4025



## 新収蔵作品 本間 菁彩 「アイヌ婦人像」

戦後の昭和21年、北海道日本画協会を創立し、その中心となって北海道の日本画の振興に力を尽くしたのが本間莞彩であった。今田敬一氏の言葉を借りるまでもなく、まさしく「北海道の日本画に、はじめて生命を吹き込んだ画人」であった。

明治27年、新潟に生まれるが少年期に余市の本間海産物問屋の養子となり北海道に移住。20才で上京して中村不折について洋画を学び、北海道に戻った

後も油絵を続けるが、昭和2年、日本画に転向、北海道を舞台にそこに生きる人々を描いた。特に戦後は、院展に連続11回入選するなど、その実力を示した。

アイヌをモチーフに描いた作品も多く、これもその一点である。アイヌ女性が織っているのは、木の内皮を纖維にしたアットゥシである。織機の構造は、日本の古い型のものによく似ているという。

# メセナ その後

木路毛五郎  
(北海道美術館協力会副会長)



質実をもっとうに、ひたすら日本人は働きまくった。やれ、と腰を、たたきながら、ひょいと顔を上げてみれば、いつの間にか、世界一のお金持ちと言われるようになっていた。

世界の経済大国ともなれば、畢竟国際のお付き合いが多くなる。欧米諸国にはコーヒーブレイクという習慣があって、つまりお茶の休憩時間であるわけだが、その時間はおむね文化について語り合う。文化のお話しができなければ、無教養とさえ思われるが、ところが、我が国の政治家、財界人はこの手の話しがこの上なく苦手な人が多い。何せ、日本はつい最近まで質実剛健を男子の本懐として、小説読んだり、音楽聴いたり、絵画を見たりする者は、どことなく軟弱者と下すまれた風潮があった。文化、芸術を語れないことは、恥ずかしいことでもなく、むしろ「ワハハ」と笑いとばした方が豪快で男らしいとさえ思い込んでいた風がある。

さて、文化を理解しない者は世界人ではない、となれば問題は別になる。我が国には古来から、大尽ともなれば大様に構え、振る舞わなければならない美風があった。「メセナ？結構じゃありませんか。やりましょう。でいくら出せばいいの？」

ローマ帝国の大臣メセナスは、文芸保護に尽力した。その人名に由来してフランス語では「芸術、文化、科学に対する手厚い保護、援助」を意味する言葉となった。

1990年経済大国になった日本はメセナにうかれた。フランスのADIMCAL（商工業メセナ推進協議会）にならって、「社団法人企業メセナ協議会」が発足された。芸術家にお金を出して、日本の文化を高揚させよう。先進国にならったわけである。

この過熱した風潮を危惧する面がなかったわけではない。文化庁は「今年は景気がいいから10億円、今年は景気が後退したのでゼロ、といった具合に景気の波に左右されることは……」。お役人はお大尽の気質をよくご存じのようだ。

バブルは、はじけた。今、メセナという言葉はほとんど聞かれなくなった。計画されていた事業は中止か縮小された。だが、そこに問題はほとんど起こっていない。

日本人はいさぎよいのかもしれない。他人のふところを当てにしていたのがそもそも間違っていたのだ。と自らを恥じ、お大尽の哲学のなさをなじろうとはしない。

アメリカの経済学者ガルブレイスは、一パンが保証されると人々は美のほうを振り向く——と言う。日本流に言えば——衣食足りて礼節を——にならうか。が、文化の重要性はそんなものではないはずだ。一本の木を大

切にする心は、一斤のパンを得るにつながる。それを知らない心は、パンを得る大地の疲弊に気がつかない。

大平内閣時代に、よく、地方の時代、行政の文化化時代と喧伝された。それを受け、各地に文化施設が竣工された。文化施設をもつことで、地方のアイデンティティが証明されるかもしれない。そんな思いさえあった。

建物さえ建てれば、文化に関心をもつことになるという発想はかなり短絡的と思われるが、それでもそういう施設がまるで不足している日本にとって、器は作ったが、それを運営する人材が不足していた事を別にして、ともあれ一步前進といえるのかもしれない。バブルが崩壊し、メセナの行方は混沌とする、というよりも、無い袖は振れないと、あっさり旗を引っ込めてしまった感がある。

1993年10月、慶應大学がアートセンターを開設した。その前91年にはアートマネージメント、アートプロデュースの講座を開講している。この着想は素晴らしい。文化マネージメントのオーソリティ、人材の育成の重要性は、特に、日本のような文化オンチの国にとっては急務といえる。

バブルがはじけてお金が無くなってしまった、そこで育った人材が、必要なお金を生む。そう言った能力ももつはずだ。また、行政官となって、長期的展望で政策化することも出来る。今まで日本にはその手の専門家がいなかった。行政の文化化時代、そしてメセナ旋風が生み出した開講であったとすれば、これは二歩前進になる。

日本には、国策と言えるほどの文化行政はまだ確立されていない。それは、国家予算の配分率を見るまでもなく、実感としてある。フランスには、フランス芸術活動協会と言って、フランスの文化、芸術を海外に紹介、また、外国からも受け入れ、自國で普及させようとする機関があり地味ではあるがコンスタントに活動を続けていく。それが、文化省ではなく、外務省に属しているのがおもしろい。文化事業がもつ重要性を強く認識しているからであろう。

さて、北海道美術館協力会は？……協力会が活動を開始したのは1977年、メセナが呼ばれる13年前になる。財團ではなく、社団法人なので、お金で支援するというよりも、人の情熱と理念で応援して来た。大きな財團の活動からすれば、細々かもしれない。しかし、支援の哲学だけはどの財團よりも大きく堅牢であると自負してよい。その意識、そのこと自体が、実は文化と思われます。

# 美術講座の周辺

従来の婦人美術講座は昨年の16回目をもってピリオドを打ち本年度からは男性にも門戸を解放し、受講枠も50人から200人に拡大して「美術講座」として新たなスタートを切り、9月7日閉講しました。今回はその周辺にスポットを当ててみました。

本年度の「美術講座」は4月20日から開始し、水曜日を開催日として16講座を無事終了しました。

200人枠で募集をしましたが、応募者は188人で実際に初日の講座に参加されたのは169人でした。講座開催中は受講者に多少の増減があり、平均140人から150人で推移したといえます。

9月7日最終の講座終了後、閉講式を行い修了証を交付しましたが、皆勤者は43人（うち男性3人）・8割以上出席者は78人（うち男性7人）でありました。

このなかから各部のボランティア活動を希望する人たちが、それぞれ部の養成研修に進んでいます。

ご承知のように、この講座は当会のボランティア養成のためのものですが、修了証を受けた人全員が即ボランティア活動に従事できるとは限りません。このへんに受講者のみなさんの不満の声も聞かれましたので実情をご説明いたします。

## ●受講枠を200人に増やした理由は何か。

昨年度も本紙をつうじて説明はしておりますが、例年本講座の受講希望者が多くこれらのニーズに応えていく必要があるということ。当会事務局におけるボランティア活動領域の拡大と、事業拡大の展望によるボランティア活動員の間口増が必要になること。この2点から枠の増を図っております。

## ●ボランティア活動員の間口増というが、どの程度増える見込みなのか。

ボランティア活動員の従来の活動領域は売店・解説・資料の3部門でしたが、本年度の組織改正によりこれに事業・広報・研修・特別活動の4部門が加わりました。この改正の機会に美術館における様々な容量を配慮し、各部の適正人員を確保するために当面暫定的ですが特別活動部を除き定数を定めました。

その定数は196人で現員は145人となっています。特別活動部は新しい活動分野のため定数は設けておりません

が相当な人数が必要になってくると考えております。また、暫定定数の見直しによる人数増も考えられます。

## ●受講枠200人に対してボランティアの間口設定が少ないのではないか。

従来からの経験で受講者全員がボランティアになると是考えておりません。当会のボランティア活動には相当の時間的拘束等が伴ってきますので、これらの要件が許容される人たちは相当絞られてきます。

そんな推定に加え、一定定数のなかではより活発な活動が可能な人が求められますので、美術講座においてボランティア要件を満たしても全員が活動員にはなれない場合もあることをご理解願いたいと思います。

## ●なぜボランティアを希望する意思を尊重して、希望者全員を活動員にしないのか。

定数のあることは前述しましたが、この拘束をうけます。希望者のなかには月に1回・2回、週1回程度活動できるという人もおりますが、当会の活動としては各部の専掌活動のほかに研修や打合せ会議・合同活動などもあり、おおよそ最低でも週2回程度の活動が可能でなければ他のメンバーに迷惑をかけたりすることになり全体運営に支障を来すことにもなり兼ねないのでご遠慮いただいております。

その他にもいろいろご不満の声もありましたが、当会の目的達成のための事業が円滑に推進できることを一義的に考えながらできるだけの努力をしているところでありますのでご理解をいただきたいと思います。

本年度、養成研修に進むこととなった各部の人数は次のとおりで、この研修は合同及び各部に別れて9月21日から来年3月22日までの間に行われます。

広 報 部	5人	売 店 部	13人
解 説 部	5人	資 料 部	13人
研 修 部	0人	特別活動部	16人
事 業 部	0人		

# 美術館ニュース

## 北海道立近代美術館

平成6年度後半に開催する展覧会からご紹介します。

「変貌する20世紀絵画」[8月20日(土)～10月2日(日)]は、オランダにあるファン・アッペ美術館のコレクションを紹介するものです。1936年に開館した当美術館は、歴史のあるヨーロッパの美術館の中には、後発の部類に属するものかもしれません。しかし、それを逆手にとって、常に同時代の美術に目を向け、欧米の若手といわれる作家の作品を積極的に収集してきました。開館以来60年近くが経過した今、その収集品が20世紀美術の珠玉のコレクションとなりました。本展では、20世紀初頭の絵画の大変革の時期を担ったピカソ、ブラック、シャガール、ミロ、カンディンスキー、モンドリアンらの秀作から、現在、世界で最も注目を集めている画家の一人であるキーファーの大作まで、50作家63点によって、激しく変貌を遂げた20世紀絵画の歩みをたどります。

同時期、これくしょん、ぎゃらりいでは「極北のイヌイットアート展」と「パリ・ナンシー、フランス二都物語」[～10月2日(日)]を開催しています。かつてはエスキモーと呼ばれたイヌイットの人々の生命感あふれる彫刻や、当館のメインコレクションであるガラスやエコール・ド・パリの油彩を紹介しながら、芸術の都パリとともにアールヌーヴォーの拠点としてのナンシーに焦点をあてています。

これくしょん、ぎゃらりいでは、引き続き「北風景追憶」[10月7日(金)～12月11日(日)]を開催いたします。

「蝦夷絵巻から観光ポスターまで」と副題の付された本展は、江戸末期から現代にいたるまで、様々な視点と様々な媒体を通して表された北海道の風景を歴史的な変遷をたどりながら紹介いたします。

毎回新しい切り口で企画する「北海道・今日の美術」[10月23日(日)～11月27日(日)]、本年度は「飛躍する器たち－工芸、建築、デザインは呼びかける」と銘打って現在精力的な活動を繰り広げる9作家を紹介します。年末年始にかけては「アミューズランド'95」また2月からは「マリー・ローランサン展」が開催されます。



キーファー 「辺境伯領プランテンブルクの荒地」1974年

## 北海道立旭川美術館

秋の特別展をご紹介いたします。まず、9月10日から10月16日まで、「ミルウォーキー美術館 20世紀美術の巨匠たち」展を開催します。全米でも有数の美術館として知られるミルウォーキー美術館には、19～20世紀のヨーロッパ、アメリカ美術のすぐれたコレクションがあります。今回の展覧会ではその中から、20世紀を代表する巨匠たちの作品54点をご紹介します。ヨーロッパではフォーヴィスム、キュビズムから戦後に至るまで、ブラック、ピカソ、ノルデ、カンディンスキー、シャガール、ミロ、ルオー、デュビュッフェ、フォンタナなど、アメリカでは20世紀初期の都会派アリズムから、戦後の抽象表現主義、ポップ・アート等に至るまで、スローン、ベン・シャーン、ディヴィス、オキーフ、アルバース、ロスコ、ジョーンズ、ウォーホル、リキテンシュタイン、カッツなどの作家です。これらのさまざまな個性をもつ巨匠たちの作品により、20世紀前半から中葉にかけてのヨーロッパ美術の多様な展開を見るとともに、ヨーロッパ美術との関わりの中から多彩な芸術を展開させて20世紀の半ば以降世界の美術の新しい主役となったアメリカ美術の動向を知ることのできる充実した内容となっています。

続く10月22日から11月27日までは「鳥山明の世界」展を開催いたします。この展覧会は、「Dr. スランプ」「DRAGON BALL」などの作品で現在最も人気のある漫画家、鳥山明の世界を、原画、セル画、映像、キャラクター・グッズなどにより多角的な方向から紹介します。現在の漫画は出版というメディアからみだし、映像、グッズ、TVゲームなど多彩なメディアに広がっています。漫画は日本の文化現象、社会現象に深い関わりと影響力を持っているのです。この展覧会を通じて、鳥山明の世界をお楽しみいただくと同時に、現代社会と漫画の関わりについて関心を深めていただければと思います。



パブロ・ピカソ 解放を告げる雄鶏 1994年

## 北海道立函館美術館

平成6年度後半の展覧会事業を紹介します。

まず、8月27日(土)から9月25日(日)までは、「寺崎広業展 薫りたつ明治の雅」を開催します。広業は、明治後期から大正前期における近代日本画の創造期に、横山大観、下村觀山らとともに画壇の中心として活躍し、美人画から歴史画、山水画にいたるまで数多くの優れた作品を残しています。また、来函した際に野田九浦を弟子にするなど、函館ともゆかりがあります。毎年、開催している現代書のシリーズでは、松尾芭蕉没後300年を記念して、芭蕉の俳諧や紀行文に題材を得た「芭蕉と現代の書の世界展」(10月1日～10月23日)を開催します。10月29日(土)から12月25日(日)までは、マイヨールの没後50年を記念した「近代フランス彫刻の巨匠マイヨール展」を開催します。当館ではロダン、ブルデルの彫刻をオープン展示をしていますが、彼らと共に近代彫刻史上に大きな足跡を記したマイヨールの代表的なブロンズ像約80点の他に素描も20点ほど紹介します。

年が明けて、1月7日(土)から2月7日(火)まではヨーロッパ美術工芸の最先端の動向を展望する「ヨーロッパ工芸新世紀展」が開催されます。染織、陶芸、金工、ガラス、ジュエリーなどの分野において、斬新な手法により様々な素材を取り組んでいるヨーロッパ12カ国、27人の現代作家たちの多彩な作品約130点を紹介します。続いて2月25日(土)から3月26日(日)までは、道立美術館の共同企画による「北海道・今日の美術」を開催します。北海道美術の現況を様々な視点からとらえる本シリーズも4回目を迎えます。

また、当館の所蔵品を紹介するミュージアム・コレクションのうち道南の美術コーナーでは10日から、道南ゆかりの作家による風景画、1月からは田辺三重松の初期作品から晩年の作品までを紹介します。さらに、鷗亭記念室では、同じく10月から絵画、書、陶磁器等の大陸の美術、1月からは比田井天来から近代詩文書にいたる日本の書を紹介します。



寺崎広業 「秋園（秋苑）」  
明治32年（1899）  
東京国立博物館蔵

## 北海道立帯広美術館

平成6年度下半期の展覧会の概要をお知らせします。

特別企画展を行う主展示室では、9月23日から10月23日まで、『ナンシー美術館名作展』を開催します。ナンシーはフランス北東部のロレーヌ地方の中心都市です。1793年に開館したナンシー美術館はフランスの地方美術館の中でも最も歴史のある美術館のひとつとして知られています。本展では、同館の所蔵品のなかからティントレット、ルーベンス、ヴァン・ダイク、フラゴナール、マネ、モネなどの巨匠の油彩画86点を、宗教、神話、肖像、静物などのテーマ別に紹介します。

つづいて、11月1日から12月18日までは、上海博物館の所蔵品によって『中国六千年の秘宝展』を行います。上海博物館は1952年の開館以来40年にわたり、有史以前から近代に至る芸術や考古の文化財の収集と調査研究に努め、現在では中国三大博物館のひとつとしてその名が知られています。今回の展覧会は、同館の全面的な協力により、青銅器、陶磁器、書画、工芸の各部門から110点を系統的に紹介する本格的な展覧会です。この機会に中国6000年の文化と美術の精髄をお楽しみ下さい。

年明けの平成7年1月14日から2月19日までは、道立美術館4館の共同企画によって本道の美術の現況をシリーズで紹介する『北海道・今日の美術』展を開催します。

つづく、2月25日から3月26日までは『帯広美術館コレクション選集』を実施します。これまで当館では、能勢直美など道東ゆかりの作家の作品、一原有徳、島州一などの現代のプリントアート、バルビゾン派の版画作品、ロートレックなどの近代ヨーロッパのリトグラフによるポスター作品などを中心に収集を進めてきました。本展では、これらの所蔵品によって当館の代表的なコレクションを紹介します。

コレクション・ギャラリーでは、11月1日から3月26日まで、『十勝の絵画－熱き表現者たち』を開催します。神田日勝、寺島春雄など豊かな色彩を用いて描いた十勝ゆかりの油彩画家たちの多様な表現を概観します。



フランス・ブーシュ  
「ウラノラとケファロス」

# 美術館ニュース

## 北海道立三岸好太郎美術館

今年の秋の特別展は、10月14日(金)から11月30日(木)まで、「北方のモダン—三岸好太郎と札幌の画家たち(仮称)」を開催する予定です。

三岸好太郎は、札幌第一中学校(現・札幌南高校)を卒業後上京し、苦学しながら画家への道を歩みますが、その活動の場を東京に構えてからも、しばしば故郷札幌を訪れ、自らを育んだ北方の地を描いたり、また多くの友人・知人たちと親しく交友し、札幌での滞在を楽しんでいます。札幌に帰ると三岸は非常に生き生きとした様子を見せていたといい、その札幌風景は佳作が多いことも特筆されるでしょう。この北の街の風土が、彼の詩情豊かな感性に大きな影響を与えていたことはいうまでもありません。

また、札幌では、大正12年の春陽会の入選作をたずさての、友人・侯野第四郎、小林喜一郎との三人展をはじめ、個展などの展覧会も幾度か開催したほか、北海道美術協会(道展)の創立時には特別会員として参加し、北海道出身の独立出品作家による北海道独立美術作家協会の結成(1933)には指導的役割を担って参画するなど、札幌を拠点とする美術活動も非常に意欲的でした。

ちょうど三岸が活躍する大正末から昭和初期にかけては、札幌でもさまざまに芸術的な意識が高まりを見せてくる時期であり、大森滋、本間紹夫、久保守、今田敬一、能勢真実、山田正、山本菊造、小山昇、国松登、菊地精二、武智肇、植木茂など、友人の画家たちをはじめとして、当時の札幌で出会った建築、音楽、文芸などの分野の芸術家たちとの交流が、三岸にとっても大きな刺激となり、彼の創造のひとつの源泉となったことと思われます。

本展では三岸の作品と札幌での活動をたどる資料、また、同時期に札幌で活動していた画家、芸術家たちの作品、資料などを通して、その芸術的交流を探ろうとする

ものです。さらに、当時の札幌の一種モダンな雰囲気をも合わせて紹介できればと思い、調査を進めています。



三岸好太郎「大通公園」1932年

## 財団法人札幌彫刻美術館



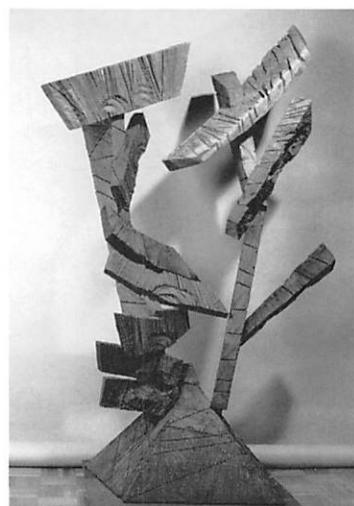
秋山沙走武「沐浴(献水)」1993年

今年の夏の特別展は、「第7回北の彫刻展—北の彫刻家26人の熱き波動、その放射する59日間—」を8月5日(金)から10月2日(日)まで開催します。

「北の彫刻展」は、北海道を活動の拠点とする第一級の作家による彫刻展として、開館以来隔年で開催してきました。

今回は、前回にさらに2人を加えた26人の作家による32点の作品が出品されます。この展覧会では、作家自身が一貫して追及している造形を最優先に材質、分野、表現方法にとらわれない、作家自身の自由な発想により制作された今現在の到達点といえる新鮮な作品を出品していただき、本館及び庭園に展示します。

出品者は、秋山沙走武、阿部典英、板津邦夫、伊藤隆道、伊藤寿朗、岩下碩通、岡沼淳一、小野寺紀子、上遠野敏、神田比呂子、国松明日香、斎藤一明、坂垣道、高橋昭五郎、田村宏、中江紀洋、永野光一、二部黎、松隈康夫、丸山隆、山下嘉昭、山田吉泰、山本一也、山谷圭司、米坂ヒデノリ、渡辺行夫の26人です。



板津邦夫「93風神雷神」1993年

## 芸術の森美術館

芸術の森美術館では、「芸術の森美術館インスタレーション」として、1991年より毎年ひとりずつ、おもに北海道内在住の作家による作品の制作設置をおこなってきました。ことしは、札幌在住の彫刻家・上遠野敏（1955年生まれ）による《Heavenwards Configuration；西へ向かうかたち》を、美術館中庭とデッキに制作、設置しています。中庭では6月18日から制作が始められました。完成後は12月の上旬まで設置され、作家自身によって撤去されます。来館された方々は、制作から完成、そして撤去までのいずれか、または数回の来館によって制作途中や完成した姿を見ることができます。

彼は、プレスされた使用済みの空き缶や、型抜きされたあとの鉄板、用済みの木箱、長靴のゴムを形成するための型、車輪をつくるための鋳型などさまざまな廃材を大量に集積して作品をつくる作家です。彼の作る作品はいずれも同名のタイトルが付けられ、廃棄されたものたちが発するメッセージによって、ものの終末と現代文明への危機感を示しています。またそれは同時に、彼自身を含めた私たち人間の生の終末と生まれ変わりを、彼自身の中で一つの現実として見つめよう



上遠野敏 '94. 6 ~インスタレーション

としたものだともいえるでしょう。

インスタレーションとは、あらかじめ制作された彫刻作品を美術館などの展示室に展示したり、公園や通りといった屋外に設置するのとは異なり、作品を設置する場所のものも景観や環境などを考慮に入れながら、その場所で制作して設置するものです。しかし、比較的短期間で解体撤去されることもインスタレーションの特徴です。制作は作家の他に何人かのアシスタントの協力によって行われ、完成までに数日が費やされます。作家の意図どおりに制作が進むように、制作過程ではしばしばアシスタントたちと綿密な打合わせが行われます。途中、設置場所との関係から作品構想の一部が変更され

たり、制作が困難な箇所があったりすると組み立てや接続の方法を変えて制作される場合もでできます。作品は完成までの様々な過程を抱え込んで作られていくのです。

こうした過程を見たり残された記録を見ることは、インスタレーションも含めた、とにかく敬遠されがちな現代美術への理解と親しみを持つ機会となり、見る人と作品との心理的な距離を少しでも縮めることにつながるのではないかと思います。

## 「札幌アヴァンギャルドの潮流」展

10月7日(金)から10月18日(水)まで

北海道立近代美術館特別展示室（貸館）において開催

この展覧会は、間もなく戦後50年の節目を迎えるいま、北海道の美術史に新しい切り口を提示すると同時に、現代美術に挑戦する北海道（在住およびゆかり）の美術家たちが一堂に会して、現代美術をめぐる創作活動がどんな思想に裏付けられて進められてきたかを、多くの市民に理解していただこうという意図のもとに企画され「札幌アヴァンギャルドの潮流」展実行委員会が実施するものです。

また、これまでの公募展中心の北海道美術史とは別な視点で編集した、戦後北海道美術の活動史を、展覧会図録として刊行されることになっております。

出展は約110点で出品者は約80人。

第I部 歴史的展示 約40点

第II部 特陳 渡辺伊八郎 約10点

第III部 現代作品展示 約60点

の予定となっております。

当会としても、この意義ある展覧会に協力しようとすること、その協賛について総会の承認をいただいたところです。従来この種の展覧会については会員証利用による観覧は認めておりませんが、今回は特例として会員証観覧を認めることになりましたので、ご利用いただきたいと思います。

# 会員の動き.....

美術研修旅行記

## 高松・徳島美術の旅

小森三和子



北海道から  
四国へ行く。  
昔の旅人な  
ら道中はどの  
ようだったの  
だろう。

現代人は、  
2時間で彼の  
地に立ってい  
る。

5月18日、25人が三泊四日の旅をした。学芸員が同行される。現地では、各美術館の担当の方からていねいな説明を受けることが出来た。

初日は、高松市美術館へ。

「アール・デコの世界」を見る。おしゃれが生活を彩った時代、とタイトルがついている。

入口近くに展示されたグリーンの長いドレスに目が惹きつけられる。大正時代頃を想像して下さいと言われる。どこか記憶に残っている感覚。手彩色の版画類は今のファッション雑誌の前身だという。

飾りのついた様々な形のプラスティック・バッグが並んでいる。実用ではなかったらしい。1920年代のパリの輝きが見えるような、女性に楽しい展覧会だった。

栗林公園で松を見て、となりのみやげ物店に群がりドッと讃岐うどんを買う。終りは屋島寺宝物館、平家ゆかりの地お遍路さんの札所の一つでもある。

5月19日、バスで鳴門展望公園へ。うず潮は見られない。徳島県郷土文化会館で、阿波の人形淨るりで使われた木隅頭を見る。昼食に鰯料理のごちそうをいただく。

午後、徳島県立美術館で、「燐光—揺れ動く時代の痕跡ー」を鑑賞する。

彼は広島で生まれ、38才の時、上海で戦病死した。展覧会を通じて、戦争という時代を誠実に生きようとしたひとりの画家の姿を浮き彫りに出来たら、と学芸の方ははなされた。

結婚する妹を想って描いたというコミサ（洋傘による少女）が心に残る。

夕方近く、藍染め工芸館で工程の実際を見せてもらう。

5月20日、天然記念物の土柱を見に行く。長い年月のうちに、風雨に侵食されて出来たという。奇妙な眺めを見上げる。更に上からのぞき込むと、20分ほど山道を登る。うぐいすの鳴き声が聞こえる。緑の中に野いちごの赤い色。足に土の感触。

午後はこんぴらさんの階段登りから始まった。この金刀比羅宮一帯では、思いがけない時間を過ごした。

表書院にある円山応挙にふすま絵の数々。網で囲ったうす位部屋の奥に見える虎の迫力。博物館では、芭蕉の直筆だという句を見つけた。…読めない。残念。

夜散歩に出る。石畳の両側はもう店を閉じている。誰もいない坂道。宿間も見た白い犬がホテルまでついて来た。

5月21日、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館へ向った私たちを学芸員が館の外で待っていて下さった。玄関に黒い大きなオブジェ、壁画。「ディヴィッド・ホックニー展」を開催している。カリフォルニアで活躍するポップアートの人気者だという。鮮やかな色彩。猪熊弦一郎が禁煙の手持無沙汰に作ったというキャンディの銀紙や細い針金を使った小品が面白い。売店をのぞいてみる。すっきりしたたずまい。

帰路は瀬戸大橋を渡る。しばらくの自由時間、船に乗る。日常と違う世界に出会うことが旅なのだ、と誰かが言っていた。

小島とおだやかな海を見ながら風を感じている。最終日は海で終わった。いい旅だった。



# ESSAY

九州へ行った折に装飾古墳をいくつか見ることができた。福岡県の王塚古墳、吉井町の日の岡古墳と珍敷塚古墳、熊本県山鹿のチブサン古墳などである。装飾古墳は5世紀から7世紀にかけて造られたというが、おそらく豪族の墓であろうそれらは墓室内に二色から四色で絵が画かれている。昭和四十七年に奈良県で発見された高松塚古墳の華麗織細な絵とは異い、もっと素朴で石面や積石に直接画かれている。資料によると、円、三角菱形、直孤文、蕨手文、鞆盾、人馬舟等があるが、鞆盾は武具であり同心円は太陽だという。すると蕨手は食物ではないのか。日の岡の裸電球の下に見た六個の同心円は今もわすれられない。王塚は蕨手や黒い馬がはつきり見えた。珍敷塚の大きな盾と蕨手のほか舟と鳥と太陽と月の象徴の蠍・蛙など、中国の影響もあるという。チブサンの三角菱形に幾何文様は現代にも通じる。2つの円文は乳房とのことで、今も乳の神様として信仰されているとか。

暗い古墳の中でも死者に贈る絵を丹念に画いたのは古代人の優しさなのか、豪族の力なのか。ともあれ古代の赤い色はことさら美しく私の目にみた。

## 装飾古墳



飯田 淑子

「この絵はどうして売らないの」「言い値で譲って下さい」

その画家の名は大樟、後に改めて光彩という。帝展無鑑査画家であつたというから、当然に観る者的心を魅了してやまないのだろう。

もって廻った言いまわしは止めよう。その画家の本名は小樽が生んだ天才画家平沢貞道である。横山大観に師事したというが、戦後間もなく多発した犯罪で、松本清張流にいえば「日本の黒い霧」の事件の一つ『帝銀事件』の犯人とされ、死刑囚として在獄三九年、昭和六二年に獄中死を遂げた画家と聞けば知らぬ人は少ないだろう。つい先日もテレビで下山事件・松川事件と共に帝銀事件について放映されていた。

著名的な画家平沢と、十数人を一挙に毒殺した凶悪事件の犯人像は、何としても結びつかず、私は今もお無実を信じて死後再審に賭けている。

平沢光彩のテンペラ画が、街の片隅でひっそり展示される現状から転じて堂々と美術館でライトアップさられる日は一体いつくるのだろうか。

## 痛恨の画布



鈴木 貞司

去る5月末中国へ飛んで、大原にある日本の淨土真宗が讃仰する淨土教のふるさと玄中寺へお詣りした。その途中石炭の街大同に立寄り雲岡石窟を見学した。

雲岡石窟は大同の西二十八km<sup>(半)</sup>にあり、敦煌の莫高窟、洛陽の龍門石窟と並び称される中国の三大石窟の一つである。幾千年の侵食を経た今も、約1km<sup>(半)</sup>にわたって大小5万一千余体の石の彫像が残つております。これは4万人の労力と六〇年の才月を費やして創造したすばらしい芸術作品だ。五三窟院のうち一部を見てまわったが、当時の人々の願いが、彫られた仏像の表情の豊かさや慈悲深い、面ざしなどに実に好妙に表現されており、美術に造詣の深い会員の皆様なら一層感懷深かつたのではないか、是非一度ご覧になることをお勧めしたい。

その後紫禁城、明の十三陵や万里の長城をまわったが、中国は国土も広いが壮大なものが多く、あらためて驚かされた旅でした。

## 中国を旅して



藤本 栄松

この頃私は大人の遊びに取り付かれている。地ビールならぬ、手造りビールを造ろうという事だ。仲間は男女、年令問わず。

まず準備はビール瓶の確保から始まった。上戸の人はこれを口実に毎日ビールを飲める。飲み干したビンはただちに洗う。

ビールの命は「水」無意根山の水、羊蹄の水、千歳のナイベツ川の水、井戸水、朝汲んで持寄る。「ビールの素」がちゃんと缶詰になつていて當時の人々の願いが、彫られた仏像の表情の豊かさや慈悲深い、面ざしなどに実に好妙に表現されており、美術に造詣の深い会員の皆様なら一層感懷深かつたのではないか、是非一度ご覧になることをお勧めしたい。

苦心の作も『水の泡』になるのではと心配だ。まあ、どんなビールに仕上っていることが楽しみな事だ。

## ま・どんな・びいる



吉田 優子

# 情報コーナー

## 新役員の紹介

本年度は役員改選に当たり、総会において役員の選任が承認されました。新しい役員を紹介します。

会長	武井正直	(再任)		小杉八千代	(再任)
副会長	秋山喜代	(再任)		斎藤一郎	(再任)
"	木路毛五郎	(再任)		繁富文承	(再任)
"	鈴木英二	(再任)		杉本拓	(新任)
専務理事	佐藤直一	(再任)		関川節子	(再任)
理事	有坂妙子	(再任)		相馬久子	(再任)
"	阿部三恵	(再任)		谷貴子	(再任)
"	安念正義	(新任)		高橋英雄	(再任)
"	今井リツ	(再任)		堂垣内香千枝	(再任)
"	伊坂重孝	(再任)		前田利明	(再任)
"	岩田泰	(新任・監事より)		八木一郎	(新任)
"	浦田久	(再任)		和田壬三	(再任)
"	植村敏	(新任)	監事	馬場昭	(新任・理事より)
"	大萱生明	(再任)		"	小川亨(新任)
"	木内和博	(再任)			
"	木村和男	(再任)			

\* 気境理事、平瀬理事、中村監事が退任されました。

## 新入会員の紹介

ご入会ありがとうございました。(平成6年1月～平成6年6月)

1月(個人会員)	2月(個人会員)	3月(法人会員)	4月(個人会員)	5月(法人会員)	6月(法人会員)
金井恭子 長谷川克彦 佐久間千鶴子 阿渡辺孝 今井葉菜子	札幌市 帯広市 札幌市 札幌市 札幌市	岡口 浜須 尾田 須白 田代	札幌市 札幌市 札幌市 札幌市 札幌市	田口 美紗子 ヒコ 眞美 コ 晴佳 寛康 原草 保田 城谷	札幌市 札幌市 札幌市 札幌市 札幌市
中山淳信 芝屋純子	札幌市 旭川市	城谷 久岡 水高 小桜 中野	札幌市 札幌市 札幌市 札幌市 札幌市	田中 久美子 久美子 久美子 久美子	札幌市 札幌市 札幌市 札幌市 札幌市
3月(法人会員) (株)道新観光 北海道通信ビジネス (個人会員)	札幌市	中野 中野 中野 中野 中野	中野 中野 中野 中野 中野	中野 中野 中野 中野 中野	函館市 (個人会員) 木藤 鈴 斎加 小高 笠村 富永 藤橋 杉八 櫻白 植見 鈴藤 岸上 葛島
及川文雄	旭川市	中野 中野 中野 中野 中野	中野 中野 中野 中野 中野	中野 中野 中野 中野 中野	札幌市 札幌市 札幌市 札幌市 札幌市
4月(個人会員)					
國松中瀧 中瀧平川 小野田古 小林古 渡木丸	札幌市 札幌市 札幌市 札幌市 札幌市	睦史子 啓悦子 浩美子 節けい子 下真陽子	史子 子 子 子 子	史子 子 子 子 子	札幌市 札幌市 札幌市 札幌市 札幌市

## 情報コーナー

### 楽しく学ぶ美術の世界

#### ミュージアム・スクール好評裡に終わる

児童を対象に作品鑑賞やワークショップを中心としたプログラムで、美術に対する理解を深めてもらおうと近代美術館では本年もミュージアム・スクールを開催した。

7月26日・8月2日の低学年対象では親子95人、7月28日・8月4日の高学年対象では親子89人の参加があり、それぞれ好評であった。全学年対象のコンサートも行われ、ボランティアは部の枠を越え、募集、受付、アート・レックス、ワークショップ、ミュージアム・サロンの部門で多数が活動した。



### 第12回会員の集い

#### ビンゴゲームで盛り上がる

6月10日、通常総会に引き続いて行われた「会員の集い」は、ボランティアによる新しい事業部の企画で実施されたが、京王プラザホテル社長 神野善司氏の講演「クロからすべてが現れる」に引き続いでパーティが行われ、そのなかでのビンゴゲームでは老も若きもはしゃぎながら楽しいひとときを過ごした。

本年の参加者は106人といまいちの感。来年はもっと大勢の会員が集まるることを祈念して解散した。



### お 知

#### ●海外美術研修旅行のコーディネーター決定

海外美術研修旅行のコーディネーターは従来美術館の学芸員にお願いしてきましたが、今年度は道内作家とのかかわりも深めていこうということからA班（11月4日から11月15日まで）は版画作家の渡会純介氏、B班（11月18日から11月29日まで）は道立近代美術館の水田順子主任学芸員に決定しました。なお、今回は応募者が多数のためC班（11月11日から11月22日まで）を編成することとなり、この班は近代美術館の長瀬美香学芸員が担当することになりました。

#### ●協力会の部内報が発行されました

ボランティア相互の共通理解や連携、意思の疎通などを図るために従来もいろいろと努力はしてきましたが、必ずしも十分な状態ではなく、それを少しでも補おうとかねて懸案であった部内報が「あんてな」と命名さ

### ら せ

れて第1号が発行されました。新しくボランティアの活動領域に加えられた広報部の編集によるものです。

#### ●会費の納入は2階売店のご利用を

会費については、会員証の有効期間の切れる月と、さらに納入のない場合は6ヶ月経過後に請求させていただいておりますが、その際郵便局の振替用紙を同封しております。勿論、その用紙を利用されても結構ですが、美術館に来られるついでがあれば、2階売店で会費を納入されますと、その場で会員証を受取ることが出来て便利です。

会報第24号のESSAYに寄せられました菅野延枝さんの「北京への旅」の文中「紫禁城、明けの十三陵」とあるのは「紫禁城、明の十三陵」の誤りでしたのでお詫びして訂正いたします。

# ガレ／幻想のガラス芸術

9月発売開始



アール・ヌーヴォーのエミール・ガレが贈る  
光を透し 自ら輝く 神秘のファンタジー

◆限定販売

◆B3版／壁かけタイプ

◆定価 1,030円（税込み）

◆100部以上購入の場合は1部824円（税込み）

道立美術館の売店でお求めください。

100部以上購入の場合は、名入れなどを含めて直接下記にお申し込みください。  
(名入れの場合はカレンダー代金のほかに5,000円を申し受けます)

札幌市中央区北1条西17丁目 北海道立近代美術館内  
社団法人 北海道美術館協力会 電話 644-4025